



母なるものの光と影

永田円了

Light and Shadow of Mother

人がゆったり自然体で、自然の美しさに感動し、感謝の念いっぱい生きるためにはどうしたらいいのだろうか。感謝、感動の思いが滲み出ている人の意識基盤には、共通に“母なるもの”のプラスエネルギー（光）の躍動が感じられる。今回のテーマは、この“母なるもの”の正体は何か。そして“母なるもの”の光と影が人に与える凄まじい影響力を検証する。

母なるもののプラスエネルギー（光）

物事を前に進めて行くとき、一瞬たじろぐことがある。失敗したらどうしよう。弱気になる。そんな時、「大丈夫、失敗したっていいじゃない、あなたがやりたいようにやんなさいよ」と、背中を押してくれる存在がいる。母親である。そんな母をもった人は、失敗を恐れない。大地に根をおろし、堂々と歩いて行く。（事例：NHK『龍馬伝』龍馬の母）



母なるもののマイナスエネルギー（影）



母なるものの影のエネルギーに支配されたとき、人は感謝、感動を失う。多くは、成長すること、責任を持って生きることを放棄し、安定と安全については、べったり他者依存をする。思うように行かないときは、ケンカになり、暴力が加わり、最終的には自他共に凄惨極まる自害と殺戮に向かう。

また、支配する方もされる方も、その快感に酔いしれる。支配される方は、良い子でいることによって、相手のエゴを満足させ、人の目地獄に突入する。支配する方は、全ての罪を相手になすり付け、正しいのはいつも自分、と己のエゴを満足させる。（事例：1960年米映画『サイコ』）

なぜに、あなたはそんなに美しいの

板東玉三郎の美しさと気品は、一体どこからくるのだろうか。幼児期に小児マヒを患い足に後遺症が残った。女形としては、高すぎる背丈。歌舞伎の家柄ではない家系から養子としてひきとられた。この三重苦をバネにしたからこそ今があるのか。

私は玉三郎の中に、強烈な“母なるもの”のエネルギーを感じる。“母なるもの” 私は愛されてここにあり - を意識基盤にしなが、かつその間を見据え、光に向かう強烈なエネルギーを感じる。

<事例>

歌・森進一「おふくろさん」、ジョン・レノン「マザー」
 ユング元型 Archetype 犠牲者 売春婦(夫) 潰しや 子供
 ヒッチコック監督作品「サイコ」1960年米映画
 NHK 龍馬伝より、命がけて龍馬を守る病身の母、母のお守りをお龍に渡す
 鶴見俊輔 / 母親との問題が人生の大問題だった
 都はるみ / 85歳で逝った母親のお骨を食べる
 板東玉三郎 / なぜに、あなたはそんなに美しいの、三重苦をバネにして、
 歌・クミコ(49歳) 最後の抱擁

